

会議録（要点筆記）

会議名	みやま市まち・ひと・しごと創生会議 令和5年度第1回会議
開催日時	令和5年9月28日（木）午前10時30分～午前11時50分
開催場所	みやま市役所 4階401中会議室
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長挨拶 3 委員紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①人口動態について (2) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> ①事業進捗管理について <ul style="list-style-type: none"> ・ KPI 一覧表 ・ 事業進捗管理表 5 その他 6 閉会
委員出席者	東原 由修、金子 修、小島 龍介、内藤 義之、横尾 輝元、原口 唯、大久保 佳史、大賀 茂功、大田黒 靖之、中島 佳奈美、奥菌 由美子、古賀 義教、前原 武美
欠席者	北原 大輔、松尾 隆彦、杉本 佑貴
事務局	村越企画振興課長、福山地方創生係長、吉開
傍聴者数	0名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ みやま市まち・ひと・しごと創生会議委員名簿 ・ みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱 ・ 人口動態について ・ みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧表 ・ 事業進捗管理表について ・ みやま市まち・ひと・しごと創生会議質問事項について

1. 開会

- 【事務局】 本日はお忙しい中にもかかわらず、本会議に出席いただきまして、ありがとうございます。企画振興課地方創生係の福山と申します。どうぞよろしく申し上げます。
- それでは、ただいまからまち・ひと・しごと創生会議令和5年度第1回会議を開催させていただきます。
- それではお手元にお配りしております、次第によって進めさせていただきますと思います。
- まず初めに、市長の方からご挨拶をいただきたいと思います。

2. 市長挨拶

- 【市長】 本日は大変お忙しい中、みやま市まち・ひと・しごと創生会議令和5年度第1回会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
- 本市では、現在、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする「第2期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方創生の取組みを推進しております。
- しかし、地方創生を取り巻く状況は、令和2年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で大きく変化しました。コロナ禍は、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼし、この3年間はその対策に注力せざるを得ませんでした。今年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、今後は、感染防止対策と社会経済活動の両立を目指した様々な取組みを再開していく必要があります。
- 本日の会議においては、第2期総合戦略における計画期間の3年目にあたる令和4年度の事業実績について主にご議論いただきます。各事業に関連して、皆様から専門的な知見も交えたアドバイスなどをいただき、これからの総合戦略の具体的施策の推進や見直しにあたり、広く関係者のご意見を反映させていければと考えております。
- 限られた時間でございますが、委員の皆様より忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げます。
- 本日は、どうぞよろしくお願いたします。

3. 委員の紹介

<交代の委員を紹介>

4. 創生会議設置要綱について

- 【事務局】 それでは創生会議設置要綱の方をご覧いただきたいと思いま

す。

まず、この会議の設置目的でございますが、1条の方に記載をしております。また、法第10条の規定するまち・ひと・しごと創生総合戦略を令和2年度に策定をしております。期間は5年間の計画になります。

この中にまち・ひと・しごと創生に関する様々な取り組みを記載しておりますが、こちらの方の策定、推進に関してこの会議の中で、議論していくというふうな中身になっております。

組織の方は、3条の方に20人以内で組織をするということで、名簿には17名の委員として、各分野の方からご参加をいただいているということになります。産業界、行政、教育、金融、労働、言論、住民、議会それぞれの分野から出席いただいております。

要綱の方に戻りますが、任期は4条の方に、委嘱する日の属する年度の翌年度の末日までの任期ということで、今年度と来年度になっております。

なお、各団体の事情等により1年で交代される場合の後任者の任期は、これまでどおり前任者の残任期間といたしておりますので、よろしく申し上げます。

5. 議事

(1) 報告事項

①人口動態について（資料1）

【原口副会長】 次第に従って、進めさせていただきます。人口動態について事務局より説明をお願いします。

**<事務局より、以下の説明>
人口動態について（資料1）**

【原口副会長】 ただいまの説明について、ご質問及びご意見等はございますか。

<意見、質問なし 委員、了承>

(2) 協議事項

①事業進捗管理について

- ・ KPI 一覧表（資料2）
- ・ 事業進捗管理表（資料3）

【原口副会長】 それでは事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞

①事業進捗管理について

- ・ KPI 一覧表（資料 2）
- ・ 事業進捗管理表（資料 3）

【原口副会長】 ありがとうございます。資料をみると早く進捗している所もあれば、課題もあるという所もあります。たくさんのトピックスが出ることを期待されていると事務局からは伺っております。ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【大田黒委員】 市内で介護職をやらせていただいている立場から申しますと、医療関係も含めて、採用という部分が一番ネックになるのではないかと思います。どうにかして若い人を採用したい。既存の社員も高年齢化が進んでおり、若い方の流出、転出については抜本的にどうにかならないのかと思っています。青年会議所の話になりますが、島根県雲南市という地方創生で成功しているところがあり、そこでは、若い人がチャレンジできることに寛容なまちづくりをしていくというコンセプトでまちづくりをしています。選挙などもそうですがやはり年齢層の高い人に重きがあるという形になると思いますので、若い人にどうプロモーションしていくかというところをすぐには効果が出ないと思いますが、シティプロモーションを交えながら行うのが大事だと思っています。

【原口副会長】 政策に反映するという観点から採用という観点における KPI がありません。地場企業としては連動性を感じないという観点になるのかなと思います。かろうじてあるとすると基本目標 2、KPI 一覧表の 3 ページの基本目標 2 の移住・定住の促進で、「福岡市及び東京都からの転入者数」という形であります。これは採用という観点ではないものと理解しております。また、基本目標 1 の企業誘致も推進については、「企業誘致数」とありますが、採用者を確保できているのかという観点からの政策を確認するような指標がないというのは一考に値するご意見になると思います。

【事務局】 貴重なご意見ありがとうございます。若者の雇用もそうですし、定住についても市では喫緊の課題だと思っています。奨学金の返済に困っている若い方が多いということで、みやま市に住みながら地元での就職をしたら奨学金の返済に対する補助する制度や通勤手当に対する補助するとすれば、流出抑止に繋がると考え、取り組みを実施しておりますが、補助金の利用は 4 件ほどです。若者が地元に残る対策として、先ほどご意見をいただいたような先進自治体の例など、情報収集を行いたいと思います。

また KPI についても、採用に関する要件がないということで、まさしくそう思いますし、地場の企業の社長さんなどの話を聞くと採用者がいないという声があります。担当は商工部門の方にはなると思いますが、計画策定の際にはご意見として検討させていただきます。

【大田黒委員】 弊社に UIJ ターン等で今年から移住の支援制度を使って来られた方が数名いますが、30、40 代のこれから子育てや、子育て中というような世代の方が多いです。みやま市の愛着とか住みやすさについては概ねポジティブなことを言われている部分があるので、そのプロモーションもやるべきではないかと思えます。近くで言うと例えば柳川に関しては知名度が高い部分があります。

みやま市もブランディングを推進して、若者が流出しないことと生産世代の人たちが友達にみやまに行きたいと思える要素を強めたいと思っています。

【事務局】 今年度シティプロモーションの第 2 期を策定しております。今回のテーマがみやま市外の方がみやま市のファンになってもらうというところで、そのような視点を盛り込んでいます。またみやま市民にもみやま市を好きになってもらい、外に流失するのを抑止するという 2 つの視点で計画を作っています。

【大賀委員】 事業の中にワンヘルスが取り入れられてないですが、ワンヘルスについて、みやま市としてまちづくり、或いはこの地方創生に関して、どのように活用していく計画なのかというところを、まだ固まってないかもしれませんが、教えていただきたいです。またワンヘルス参加者宣言事業者の募集をしていたと思いますが、その進捗状況を教えていただきたいです。

【事務局】 ワンヘルスの推進については、この総合戦略が来年度までの計画のため、抜本的に取り入れるのは難しいと思いますが、取り組み自体にはワンヘルスの視点を持って、今後取り組みの報告ができると思っています。ワンヘルスの推進については今年度総合計画の後期計画を作る予定としておりますので、その中にワンヘルスの理念を取り入れて、推進の方法や取り組み内容について明文化できるのではないかと思います。

ワンヘルスの推進については、市長がワンヘルスを新たなまちづくりの起爆剤にして取り組んでいきたいとおっしゃっております。またワンヘルス推進の計画の指針となるワンヘルス推進計画を今年度作るようにしていますので、そちらでより具体化した取り組みを提示できると考えております。

ワンヘルスの推進登録事業者につきましては、県内ではみや

ま市が一番多い数となっております。ただ、正確な数字を持ち合わせていませんので、後ほどご報告いたします。

【前原委員】

ワンヘルス推進事業は、みやま市の将来に係る大きな事業で市民の皆さんも関心を持っている部分です。しかしながら、さっき表がそうしている事業所。別のワンヘルスの計画を立てるかなという。一本化する点でも発信についてもなかなか難しいような気がします。結局、シティプロモーションに関わってくるところだと思います。みやま市はどういう形だというのが今日出席いただいた方は、市が抱えている問題、ワンヘルスを踏まえて、将来の見直しをどのように変えるのか。その中で重大な案件という中で、先ほど課長が申し上げたシティプロモーションを今後作っていくという中でワンヘルスを一体化できないのか、何か別問題のようなとらえ方をされている気がします。総合戦略に当然入れるべきというふうに考えております。変化するべきものについては積極的に取り入れていくべきであると思います。

【事務局】

ワンヘルスを推進するというのは市として大きな考え方だと思います。まち・ひと・しごと総合戦略でもこの事業進捗管理表の中で取り組みとして出てくることはあると思います。ただ先ほど申しましたが、この本編を計画の途中で修正するのが難しいので、先ほどのような回答になったところでございます。市としては当然ワンヘルスの推進を取り組みます。

【原口副会長】

戦略の立て付けとしてできないという回答であり、今後改訂する際には今のご意見については、議論を踏まえ、検討するという認識でよろしいでしょうか。

【事務局】

総合戦略の3期について来年度から策定が始まりますが、その中には市の柱事業でありますので、ワンヘルスの視点を取り入れた総合戦略の策定になってきます。

【原口副会長】

次回見直しを図るときにこういうことしていただけたらありがたいなと思っておりますが、KPI一覧表の中で、一番右に達成度が書かれていると思います。ここにBやSがついているものが、すなわちこの指標がどうであるかということを示しているだけで、このKPIが適切かどうかということについては示されていないと思います。例えば一覧表の中の2ページ。一番下に「サイン設置数」というものがありまして、3ヶ所の目標値が0ヶ所なのでB評価と書かれております。具体的な内容として管理表の9ページを見ると市内のサイン設置数の調査は全て完了に至らなかった等々書かれていて、今後の展開としては、整備をしていく必要がある一方で、大きな財政

負担が生じるので、費用対効果について検証して事業の見直しを図ると記載があります。この内容については全く異論ありません。観光振興がサインの設置数で測れるという設定そのものが、私自身少し疑義があるように考えると、このB評価になっていることはむやみやたらに目標達成しようとしてないという意味においていいことだと個人的には思います。ただ一方で、これが次の計画にも目標としてこのまま掲載されるのはいかがなものかと思っております、その点でこの指標を見直すべきではない、指標達成されているかどうかに加えてこの指標を継続して盛り込むべきかどうかということの評価についても議論が必要だと思っております。それが一覧で見えるような表なり、或いは原課の方にこのKPIを継続して設けていくつもりかということも併せて確認をいただけないかなと思っております。ただ、評価がそもそも適切なのかとかですね、この質問事項の最初の1ページのご質問者様も気にされているものだと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

【事務局】 KPIに関してB・A・Sの評価の方法や例えばBがBでもコロナ起因のものもあると思うので、まずこのKPIが適切かどうか、内部の方で検証させていただきたいと思っております。

【奥菌委員】 文章で見ると非常にいいことを記載されていますが、正直実情として現実と乖離している部分があるのではないかなと思っております。目標値の中にはKPIの数値として出せない項目というのが市政の中にはたくさんあると思います。必ずしもKPI数値として表わせるわけではないので非常に難しいと思います。SABの評価で示されているとおおり、確かに数字だとならぬのでしょうが、実感として捉えづらい部分がありました。この会議は他業種の方の様々な意見をいただきたいというのが主目的だと思いますので、もう少し多様な視点が必要なかなと思っております。

【原口副会長】 管理表の21ページを見て、「ファミリーサポートセンターの登録者数」が子育て家庭の支援のKPIとして書かれています。本来であればマッチングの件数や、利用された件数で支援ができたかどうかというのを測るべきだと思っております。500名目標に対して493名の数値のため、もっと踏み込んだKPIで事業の評価をしていただくような姿勢があるとなお良いのではないかなということをおそらく奥菌委員の発言の内容ではないかと勝手ながら私は解釈しています。達成度が高い項目ほどそういった見直しがあっただきたいなと思っております。

【金子委員】 公共機関コミュニティバスの件についてです。医療機関は

コロナ禍の状況で外来の患者さんが元の状態に戻ってないような状態です。その中で処方されているお薬とかの種類によりますと、長期でお見えになられる方と短期でお見えになられる方がいらっしゃいます。つい昨日の話でございますが、山川地区の方のご意見で割と頻繁に来る必要がある患者さんですが、来る時のコミュニティバスは利用しやすいとのことですが、帰りは不特定な時間になってしまうので、やはり上手に使えないという話でして、その時は、タクシーを使っていますとのこと。1回の受診で、交通機関と窓口の一部負担金で5,000円近くなっているという状況で非常に負担になっているとのこと。その中で先ほどのお話では、コミュニティバスの運用に関する見直し等も予定に上がっているようですが、現時点で見直しの内容がわかるようなご意見があれば伺いたいです。

【事務局】

本年度6月にみやま市公共交通計画を策定しまして、その中にコミュニティバスの運行見直しについて記載をしております。今は6台のコミュニティバスで、ほとんど市内の集落を巡回しているため、ダイヤやルート等で利用者にとっては不便な面も多々あります。他の自治体で実施していますデマンド交通の実施を検討し、コミュニティバスについては高齢者の方が利用される場合が多いので、医療機関やスーパーなど利用される時間帯や施設をある程度把握して、集中的に運行させ、それ以外の小さい集落内の移動については、デマンド交通の導入を検討するといった方針で、今後進めていきたいと思っております。現時点で、いつから導入というのは決まっておりません。議会の方にもお話をさせていただきましたが、来年度にはデマンドの実証実験はもう進めていく予定です。

【金子委員】

サービスの一環として訪問する車があると思いますが、当法人もそれなりの台数があります。不定期で市内を循環している車を共有するような方法というのもあるようでございますので、市の方でも情報収集していただければと思います。

【事務局】

医療機関や介護施設では送迎に使われている車は朝と夕方であり、それ以外の時間は車両が空いているという現状もあります。他の自治体によっては、そのような空き時間の車両などの資源を活用していますので、そのような資源の活用も含めて検討できないかと考えています。

【前原委員】

以前、国の方で買い物難民等の足を確保するためのアンケート調査がありました。空き時間を地域に貢献するという貢献制度のアンケート調査がされていました。ほとんどの施設

の方は協力していいという回答を受けられて現在1ヶ所、長島地区が実施しています。3年前ほどに県がすべての施設にアンケート調査をしています。みやま市内での施設でも協力できるという回答をいただきましたが、現実には1ヶ所だけ協力をいただいています。デマンド交通よりも地域との関係が密接になりますので、施設などと一体となって活用できればデマンド交通よりもより有効活用できるのではないかと思います。

【内藤委員】

金融機関としての立場からお話させていただきますが、みやま市の現況から言うと資金需要が非常にない状況であります。地価を見ますと県内でもみやま市、大牟田市で下がっており、他のところは上がっています。田川地区などに資金需要がある状況を踏まえると、まず人手不足というのがありますが、人手不足を解消するための人を集めるということを優先するのか、魅力のある事業所を誘致するのか、どちらかに焦点を当ててではないですが、両方向を追っているようなKPIになっているのではないかと思います。当行で口座作られている方は、住まいがこっちで勤めが久留米や福岡というのがあるのであれば、逆にその人を集めるような、住めるようなまちづくりを目指すべきかもしれません。両方を目指しているがゆえ、両方少し悪くなっているという状況があるので、どちらか優先的に考えていくようなこともいいのではないかと思います。人が住めるということをベースにやっていくのか、それともここに企業誘致して周りから人を集めるという話なのか。この辺の地元の方はずっと人手不足と言われており、誰か人を紹介して欲しいとか言われて実際に紹介や協賛とかなど銀行は取引がありますが、ここに住むという魅力を追求していくのが市の方針、方向性としてはいいのではないかと思います。

別件でみやま・柳川インターにワイテックさんの誘致が決まって、決まったのはいいのですが、人の雇用がアろうかと思えます。周りの企業からすると人材が流出する可能性があると思っている人もいて、みやまの中小企業の給与水準と上場会社の関連会社である給与水準を比べたらやはり上場企業の方がいいです。ただ高齢者は逆にそういった企業の対象にならないので、高齢者を多く雇っている企業は人手不足にならないのかもしれない。30代、40代を雇っている方のところの企業さんは、ワイテックさんに流出するのではないかという不安もあって、そこを外国人労働者などで穴埋めしていかなくゃいけないと考えている企業さんが非常に多いというのが実態ですので、その辺も踏まえたような方向性、確かにこのKPIもいろいろありますが、どこかに集中して、ここを中心的にやって今回

の計画でいきました、いきましたというのが一番大事だと思いますので、それを検討されてはいかがかなと思います。

【原口副会長】 政策的な部分についてご指摘をいただきましたが、恐らく居住環境の整備というものに力を入れないと難しいのではということもおっしゃられたのかなと思います。それでKPIを見ると、良好な住宅環境の整備という「空き家」にフォーカスしたものしかないのも問題があると感じました。

【事務局】 なかなか難しい問題だと思います。人が住みやすい取り組みも実施していきますし、企業誘致を行い、そこで人を生み出すといった取り組みも必要だと思っています。市としてはどちらも取り組んでいかなければと思っていますし、市の施策として重点を決めることは必要になると思っています。企業誘致にしても、都市計画や農振地の問題でなかなか進まない部分もありますが、都市計画マスタープランの改定が今年、来年度と2カ年で行われるようになっております。その中で今ご指摘いただいた分については市としても都市計画マスタープランの変更と併せてよりよい方向に進めていきたいと聞いております。

【大久保委員】 教育の関係でお願いいたします。山門高校はみやま市で唯一の高校ということで、我々の教育活動の目標の一つにみやまの子はみやまで育て、うちはもう高等学校ですから、大学に進学したりとかいうことで地域を出て、大学行ったりとか就職する子もいますが、最後はみやまに愛着を持った、そういった人を育てたいということで教育活動に取り組んでいるところです。その中の一つに、管理表の27ページにも示してくださっていますが、山門高校との交流を促進していくと記載されています。現在すでにみやま市内の小中学校さんといろんな連携を実施しております。今日も午前中、みやま市の小学生の陸上記録会があっており、6年生が全員、山門高校のグラウンドを使って陸上大会をやらせてもらっています。それ以外にも夏休みのサマースクール学習支援ボランティア、市内の小中学校に高校生が出向いて学習支援の実施など、他にもいろいろ実施しています。夏休みも今年度は初めての取り組みで、瀬高中学校さんと市リーダー宿泊研修会というのをやりまして、次年度に向けては、市内の中学生に少し幅を広げてそういった研修会を行おうということも考えているところです。いろんな交流を図っていく上で、資金面がなかなか苦労しているところで、少しでも市の方から支援をしていただければありがたいかなと思います。今回の会議の趣旨とは違うかもしれませんが、要望になるかもしれませんが、交流促進を図る上で何かの取り組み、これについてもより具体的

に検討・協議をしていただければと思っ

【事務局】

山門高校とは数年前も地方創生の取り組みで若い方の意見を調査するということでご協力をいただいたところです。様々な取り組みになかで小中学校の子どもたちの連携や、JCさん実施しているものがあり、市長に表敬訪問された際もそういった話をされており、高校との連携活動も今後していきたいと思

います。おっしゃる通り、学生はどうしても大学で市外に流出しますが、みやまに帰ってきたく

【原口副会長】

ような教育はいつも重要だと思

【原田副会長】

ますので、本市としてもワンヘルスに関して若い方のご意見を取り入れるという意味でもいろいろ連携をやっていきたいと思

【事務局】

います。山門高校において様々な取り組みをされており

【原口副会長】

ますので、協力してやっていけるところがあれば連携をさせていただければと思

【事務局】

ます。予算は必要なことだと認識しておりますが、それを自治体になると厳しいというのもよく理解ができます。そういった観点では大学の研究フィールドとして山門高校さんと連携するとか、或いは探求学習を事業とするような事業者さんがいますが、経産省等の予算を取って実証実験するということもありますので教育でも大学との連携、県連携事業者との連携をふやして教育機会であるとか、柔軟な予算の活用

皆さまから頂いた意見を基に所管課と協議を行い、KPI の目標値及び事業進捗管理表について、修正を行います。次回の会議では、来年度以降に向けた見直しの内容を委員の皆さまにお示しできればと思います。会議の日程等が決まりましたら、事務局から委員の皆さまへご報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(午前 11 時 50 分 閉会)